

# 乙 頁

おと さだ

第68号 通巻13巻 第1号  
 1993年5月1日 発行  
 守山市立埋蔵文化財センター  
 ☎0775-85-4397  
 〒524-02  
 守山市服部町2250番地

## はじめに

桜の季節が過ぎ、若々しい草木の緑が眩しいこの頃です。例年どおり、慌ただしい1カ月が過ぎ、やっと落ち着きを取り戻し始めたところです。今年度も多くの発掘調査が予定されていて4月当初からすでに7件の調査を行っています。今号は4月に実施した発掘調査の結果および進捗状況について報告したいとおもいます。最後になりましたが、今年度も藤本所長以下、不動のスタッフで発掘の最前線で頑張りますので、宜しくご指導・協力くださるようお願い申し上げます。

### 【発掘調査だより】

#### ◆ 酒寺遺跡の調査(三機工業跡地)

昨年12月より発掘調査を進めている播磨田町の酒寺遺跡について、現在までに終了した地域の中間報告をします。現在、調査対象地域約14,000㎡のうち第1調査区の4000㎡の調査が終了した所です。旧耕土・床土直下において遺構の検出作業を行いました。その結果、弥生時代後期の竪穴住居4棟、井戸3基、土坑10基、古墳時代後期の掘立柱建物及び土坑、溝などを検出しました。弥生時代後期の住居は4棟とも方形プランで、竪穴住居の床面より出土した土器から後期末と考え

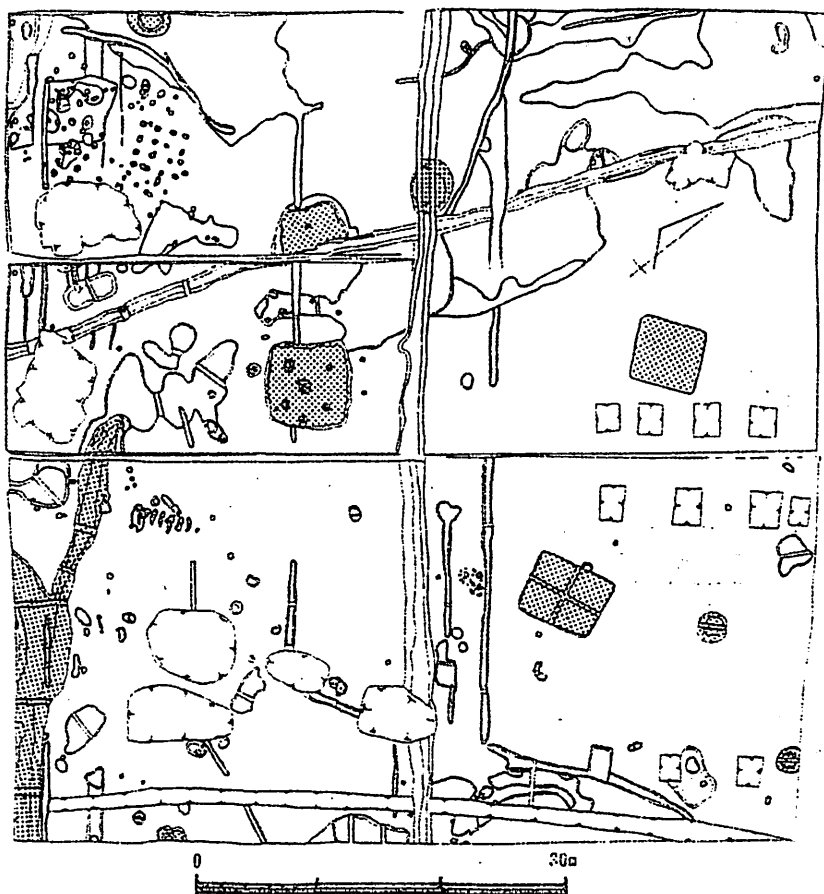
### 【平成5年4月～5月1日までの調査】

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	備考
①	酒寺遺跡	播磨田町	店舗建設	4/1～	前年より継続調査
②	欲賀城遺跡	欲賀町	ほ場整備	4/1～	前年より継続調査
③	二町鏡遺跡	二町町	共同住宅	4/1～4/19	
④	寺中遺跡	赤野井町	個人住宅	4/12～4/17	
⑤	川原田遺跡	川田町	店舗建設	4/21～	
⑥	布施野城遺跡	播磨田町	宅地造成	4/19	
⑦	伊勢遺跡	伊勢町	宅地造成	4/23～	

られます。これらの住居跡の近くで井戸が3基見つっています。井戸はどれも直径1.5m、深さ1mほどの規模で円形に掘られていて、底からは住居と同時代の弥生土器が出土しています。弥生時代後期末の小規模な集落の構成を伺ううえで貴重な資料といえます。

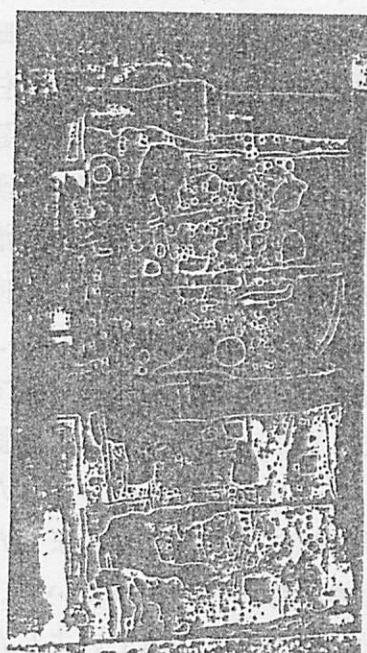
弥生時代後期末に集落が廃絶した後、溝が掘られています。この溝は南北方向に直線的に伸びていて、幅約1m、深さ80cmを測り、逆台形に深く掘削されています。溝底からは古式土師器が若干出土していることから、古墳時代前期の遺構と考えられます。さらに同溝が埋まった後、調査区の西隅に掘立柱建物が検出されていることから、古墳時代後期に再び集落が営まれたことがわかります。なお建物の柱穴からは、須恵器の坏・壺などが出土しています。同調査は12月末まで行う予定ですので、機会がありましたら現地を覗いてみてください。

▽ 酒寺遺跡調査全体図（網目部分は弥生時代後期の遺構です。）



#### ◆ 欲賀城遺跡の調査

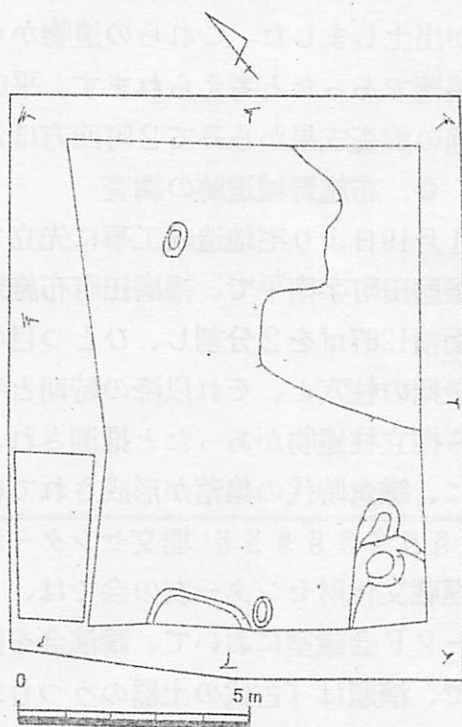
団体営ほ場整備事業にさきだち欲賀町地先の水田地で、平成4年度より継続して発掘調査を進めています。本年度は約10,000㎡が調査対象となります。今年度の調査地は、畑地として耕作されていた地域で、周囲の水田よりも一段高くなっています。現在までに溝、掘立柱建物、土坑、井戸などを検出しています。溝は、柱穴群の回りを巡っていて、屋敷地を区画するものではないかと考えられます。これらの遺構からは、土師器、黒色土器、瓦質の鍋や信楽や常滑の鉢、東播系の鉢などが出土しています。これらの遺物から、13世紀後半代から14世紀中頃にかけて集落が発達し、15世紀代に衰退していったものと考えられます。調査が進むにつれて、さらにこの集落の様子が明らかになると思われます。



▲ 欲賀城遺跡航空写真

#### ◆ 川原田遺跡の調査

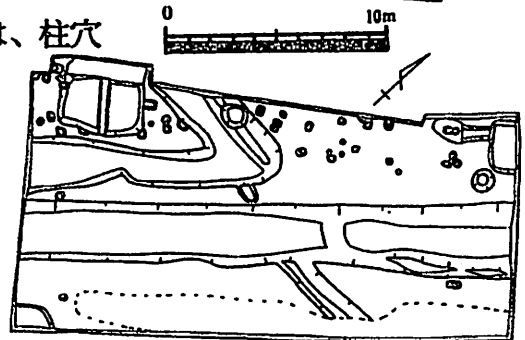
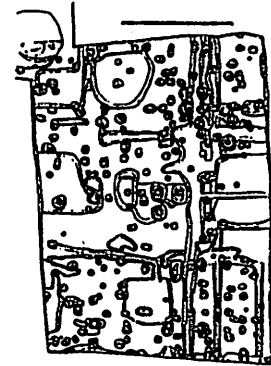
川田町字西浦で、店舗建築に先立ち調査を実施しました。道路建設にともなう調査で『宮殿』や『倉向殿』などの墨書土器がみつかった調査地点の隣接地にあたります。調査の結果、耕作土直下で古墳時代から奈良時代にかけての遺物を含む土層が確認され、その下から古墳時代前期の土坑が大小あわせて5基、検出されました。さらにその下には、土器を含む土層が1m以上堆積していて、洪水による土砂の堆積が著しかったことが想像されます。川原田遺跡では土層の堆積の安定していた古墳時代前期の一時期に、集落が営まれていたものと考えられます。



▲ 川原田遺跡調査全体図

#### ◆ 二町鏡遺跡の調査

平成5年4月1日から二町町の物部小学校の東、約200mの地点で、共同住宅建築に先立ち発掘調査を実施しました。住宅建築が予定されている2カ所に調査区を設定して調査を進めた結果、東側の調査区では、幅3mの溝、柱穴、土坑が検出されました。柱穴の並ぶ方向と溝の伸びる方向が一致することや直径1.2m、深さ1.6mの井戸が見つかった事などから、溝で区画された屋敷地であったと考えられます。西側の調査区では、柱穴が200個以上も見つかった他、西隅では井戸も検出されました。井戸は木の枠が設けられていて、底には曲げ物が据えられていました。二つの調査区で検出された遺構からは土器、石鍋、釘、銅銭（開元通寶）などが出土しました。これらの遺物から鎌倉時代後期から室町時代にかけて営まれた集落であったと考えられます。平成3年度に道路建設に先立ち行われた調査と、今回の調査成果からみて2町四方ほどの集落が存在したと推測されます。



#### ◆ 布施野城遺跡の調査

4月19日より宅地造成工事に先立ち、発掘調査を実施しています。調査所在地は播磨田町字南平で、播磨田町布施野の集落の南辺にあたる畑地です。現在、対象面積1267㎡を2分割し、ひとつ目の調査区を調査中ですが、ここからは鎌倉時代後期の柱穴と、それ以降の時期と考えられる溝を検出しています。柱穴の存在から掘立柱建物があったと推測され、調査区の北側にあたる現集落に重複するように、鎌倉時代の集落が形成されていたと考えられます。

§ § § § § § § § 埋文センターからのお知らせ § § § § § § § § § § § §

埋蔵文化財センター友の会では、5月15日（土）午後1：30より、埋文センター2F会議室において、講演会を開催致します。講師は文化財係長 山崎秀二氏で、演題は『古代の土器のうつりかわり』です。入場および聴講は無料ですので多数御参加ください。

後記 慌ただしい年度始めの1カ月、なんとか発刊でき“ホッ”としています。(BK)